

02_ 教育条件委員会活動報告

②

1 教育予算陳情にかかわる動き

- (1) 県教育委員会に対する陳情
 - ・ 8/27 (火) 実施済み (別紙参照)
- (2) 関係県議会議員への陳情
 - ・ 「県教育予算学習会」 10/8 (火) 13:30～ 県教育会館
岡崎市、豊田市、豊橋市、豊川市、新城市からの出席あり
 - ・ 県議会議員への陳情の実施 10～11月
正・副議長、教育・スポーツ委員、自民党役員、各党団長への陳情を行う

2 セカンドステージセミナーにかかわる動き

- (1) セカンドステージセミナー (別紙参照)
 - ・ 11/6 (水) 三河: 13:30～ (尾張は10:00～) 県教育会館
役職定年を迎える校長、若年退職する校長が対象
三河は午後日程で実施だが、午前(尾張地区)の会への参加も可能
退職金の計算式、61歳から必要な諸手続き等、詳しい説明がある
- (2) 参加名簿の集約
 - ・ 各地区委員による集約完了 9/27 (金)
「出席の予定だったが欠席に」「欠席で報告したが出席に変更」等、今後の変更は地区教育条件委員会を通してご報告ください

3 県教委財務施設課からの情報

- (1) 教育予算について
 - ・ 令和5年度の旅費執行状況は約8割(コロナ前は約9割)
前年度の執行状況に応じて予算が決まるため、必要な出張は積極的に行う
 - ・ 教員特殊業務手当は8月実施の執行見込調査から判断して所要額を要望する
部活動の地域移行が進めばいずれ減額されていくのではないかと
 - (2) 教職員の加配定数配置について
 - ・ 「部活動ガイドライン」を守る市町村にのみ人的加配が行われる → 順守を!
 - ・ 働き方改革の観点から教員の空き時間を増やす必要があるため、「少人数」ではなく「専科」が重視される傾向にある
 - (3) 国の会計監査院による学校訪問を終えての指摘内容(別紙参照)
 - ・ 「外国語『専科』教員」を「TT」で活用していた
 - ・ 日本語教育が必要な児童生徒の「個別の指導計画」等が作成されていなかった
 - ・ 特別支援学級で種目種別ごとの指導が行われていなかった
 - ・ 「児童生徒支援」加配の担当教員が明確になっていなかった
※「加配により通常の教員が一人増えた」のではなく、その加配により「児童生徒支援が進む」ような形で活用するべき、との指摘があった
- ★「目的外使用」にならないような注意が必要!

4 別添資料

- ・ 「令和7年度県教育予算」に関わる陳情報告
- ・ セカンドステージセミナー 次第
- ・ 教育予算及び教職員定数について(財務施設課によるレクチャー)

「令和7年度県教育予算」に関わる陳情報告

日 時：令和6年8月27日（火）

9：30～10：10

場 所：県庁西庁舎 教育委員会室

参加者：県教育委員会 13名

県小中学校長会 12名

- 1（9:30）開会（司会；尾本義務教育課長、進行；村越主任庶務理事）
- 2（9:31）県小中学校長会 都築会長挨拶
 - これまでの愛知県小中学校長会並びに愛知県へき地教育研究協議会の活動に対するご理解とご支援、さらに台風接近に伴う様々な対応がある中での教育予算にかかわる陳情の機会設置に対する感謝とお礼。
 - 令和6年度の教育予算について、教育諸条件の整備や教職員の処遇改善にご配慮いただいたことへの感謝。
 - 愛知県小中学校長会では、本年度も引き続き「時代を見据え、高みを目指し、共に歩む」をキャッチフレーズとして定めている。これからの時代を見据えた上で、教育の本質を見極めた質の高い教育を目指し、子どもたちの夢の実現を叶えるべく、力を尽くしているところではあるが、教育課題は依然として厳しさを増している。
 - 愛知の教育の質の高さを担保し、子どもたちがより豊かで健やかに成長するための要望をさせていただく。県の財政状況が厳しいことは重々承知しているが、我々の切なる思いをご理解いただきたい。
- 3（9:34）県小中学校長会・県へき地教育研究協議会出席者の自己紹介（書面にて）
- 4（9:35）陳情書の手渡し
 - ・愛知県小中学校長会 都築会長から飯田教育長へ
 - ・愛知県へき地教育研究協議会 彦坂会長から飯田教育長へ
- 5（9:36）陳情内容の説明
 - ・県小中学校長会 高木教育条件委員長
 - ・県へき地教育研究協議会 彦坂会長
- 6（9:49）質疑
- 7（9:50）県教育委員会 飯田教育長ご挨拶及びご指導（裏面）
- 8（10:10）閉会

飯田教育長 ご挨拶及びご指導（要旨）

- 1 台風が接近し、大変な中でお越しいただいた県小中学校長会並びに県へき地教育研究協議会の皆様方であるが、日頃からそれぞれの地域で義務教育を支えていただいております。心から感謝しているところである。県全体の話やへき地教育の話について、日頃からそれぞれの会長より詳しい説明を受けており、愛知では皆様のおかげで質の高い教育が行っていると承知している。これからも我々と一緒に愛知の教育をよりよいものにしていくため協力をお願いしたい。
- 2 先ほどは、令和7年度の教育予算に関して、丁寧な説明をいただいた。陳情書に書かれた内容については、まさに的を射たものであり、すべて重要なものだと感じている。我々としてはこれらの要望を一つ一つ実現していくことが愛知の教育の充実の王道であり、近道であると考えている。
- 3 県小中学校長会の要望については、教職員の定数をしっかりと考えていかなければならないと考えている。標準法における「乗ずる数」の見直しについては、なかなか難しい問題ではあるが、毎年、国に対して要請を行い、改善に向けた努力を行っているところであり、今後も粘り強く声を届けたい。
- 4 少人数学級について、本県は国に先んじて取組を進めている。来年で国による小学校6年生までの少人数学級編制が完了し、次は中学校ということになるのだが、概算要求を見ても国の動きがまだ読めない状況である。県として行う中学校1年生の独自措置は堅持しつつ、国と連携しながら、さらなる県独自の措置を行う予定である。
- 5 学校における働き方改革の推進でもっとも効果が高いのは教科担任制であろうと考えている。小学校では学級担任が一日中教室にいないとはならず、学級担任に空き時間をつくるためには、教科担任制による人的措置を行うのがもっとも効果的な施策である。国と一緒にこれを推進していき、教職員の処遇改善に尽力したい。
- 6 少人数学級、教科担任制、部活動改革は教員の働き方改革に直結する三本柱である。本県では「働き方改革ロードマップ」を策定中であるが、教員に対する物理的な負担軽減を県として推し進めつつ、各校での業務改善を併せて行っていくことで「45時間超え」の問題を解決したい。働き方改革とセットになった予算編成を進める所存である。
- 7 へき地教育について、先日、岡崎市で開催された研究大会に参加させてもらったが、本日の要望の中にもあった「ふるさと 出会い創造推進事業」によって行えた様々な価値ある体験を発表する子どもたちの笑顔に触れることができた。へき地教育に関する予算をもっと使いやすい形にしていくことで子どもたちの笑顔をさらに広げたいと考えている。また、研究大会では、複式学級の運営は担当する教員の高いスキルで支えられていることを知り、担当する教員が働きやすい、よりよい環境整備の必要性を痛感しているところである。皆様方とベクトルを合わせて改革を進めたい。
- 8 最後に二点、お願いをさせていただきたい。一つ目は「休み方改革」についてである。「県民の日学校ホリデー」については、今年度も多くの市町村で実施していただけることを感謝している。昨年度は46市町村が協力いただいたが、学校を閉校にして実施することにより教職員も休みをとれたと報告を受けている。子どもたちと家族が楽しめるだけでなく、教職員の皆様も楽しめるようにしていただきたい。
- 9 休み方改革のもう一つの柱である「ラーケーションの日」については、2年目になり学校現場も落ち着いてきたと聞いている。これは教職員の皆様の尽力のおかげであり、大変感謝している。モデル事業に参加する市町村は、昨年は18だったが今年は35に増えており、次年度はさらに多くの市町村に参加していただきたいと考えている。校務支援員の活用により、教職員の負担軽減を図ってほしい。
- 10 9月2日には新学期が始まる。不安を抱えて登校する子どももいるかと思うが、アンテナを高くして子どもたちのケアをしっかりと行い、みんなが笑顔で過ごせるようお願いしたい。
- 11 皆様と一緒に教育予算の獲得に努めていくので、よろしくをお願いしたい。

セカンドステージセミナー 次第

令和6年11月6日(水) 午後1時30分～

愛知県教育会館 7階 会議室

司会 教育条件委員長 高木 潔

同 副委員長 山北 淳

1 あいさつ

県小中学校長会長 都築 孝明

2 説明会

○退職手当について

講師：愛知県教育委員会教職員課給与グループ主事 栗木 良 様

・質疑応答

3 その他

※説明会に引き続き

○退職教職員互助会の継続手続き等について

講師：愛知県退職教職員互助会 事務局長 林 徳孝 様

・質疑応答

○役職定年後の生活設計等について

講師：愛知県教育公務員弘済会より 櫻井 幹士 様

・質疑応答

〔令和6年9月10日(火)〕
教委財務施設課管理グループ

教育予算及び教職員定数について

1 教育予算について

(1) 旅費

- ・令和5年度の決算状況(別紙、一覧表)
予算配分・・・普通旅費及び研修旅費は4月に85%、11月に執行見込額に基づく年間所要額分を配分。修学旅行等引率は所要額の100%、行事の下見旅費は制限人数分について所要額の100%
- ・令和7年度予算要求の考え方
今年度は、昨年度と同様に、児童生徒の安全確保のための「社会見学・遠足等の引率」、「行事の下見」等に必要な所要額を別枠措置として確保するとともに、普通旅費及び研修旅費の1人当たり単価の水準を維持したところであり、来年度予算においても現行水準を維持していきたい。

(2) 教員特殊業務手当

- ・中学校の部活動指導手当の伸び(当初予算で比較)
R4予算 671,129千円 → R5予算 671,129千円 → R6予算 671,129千円
コロナの影響により、令和2年度の執行見込額が大幅に減額となっていたため令和2年度から同額を予算化
- ・令和7年度予算要求
8月に実施する令和6年度執行見込調査を踏まえ、所要額を要求していく予定。

2 令和7年度国の概算要求について

別紙のとおり。

本県における定数要求は、原則、概算要求案の内容を踏まえて要求していく。

3 教職員の加配定数配置に係る資料について

少人数指導、外国語専科、教科担任制専科、小中一貫・連携教育、学園制、児童生徒支援、養護教諭、栄養教諭及び事務職員の加配の希望調査について、7月19日付けで各教育事務所へ照会

※「部活動ガイドライン」を守っている市町村(学校)にのみ人的加配を行う。

働き方改革の観点から、「少人数」ではなく、教員の空き時間で増やす「専科」が重視される傾向

4 加配校への学校訪問の結果について

加配した学校の活用実態、課題等を把握し、今後の予算要求等の参考とするため7月と9月に抽出で学校訪問を実施している。(財務施設課+特別支援教育課)
(適切でなかった過去の事例)

- ・「外国語専科教員」を加配した学校において、12時間の授業、残りをTTに活用していた(外国語専科教員の授業持ち時間は24時間以上必要)。
- ・日本語教育が必要な児童生徒について学校で作成する個別の指導計画、日々の記録が作成されていなかった。
- ・特別支援学級において、障害種別ごとの指導が行われていなかった(知的障害の児童と自閉・情緒障害の児童が一緒に授業を受けていた)。
- ・「児童生徒支援」を加配した学校において、担当教員が明確になっていなかった。
- ・「教科担任制専科教員」を加配した学校において、加配教員と担任がTTで授業を行っていた(専科教員は担任の持ちコマ数を軽減する目的もあるためTTは不可)。
- ・「少人数指導授業対応教員」を加配した学校において、TTや習熟度別指導を実施している時間数が配置人数に対して極端に少なかった。

「専科」で行うべき

TTや習熟度別指導を行うための加配ではなく、TTではなく、通常の教科担任に活用して。

加配により通常の教員が一人増えただけではなく、その加配により、児童生徒支援が進む形にするべき。

※「自由外活用」にならないように注意。

令和5年度小中学校旅費決算状況

執行率 80%

単位：円

2024/9/10

工口前は90% (工口後は完全に赤字) → 予算削減が少なかった
 必要は出張は少なかった

小学校費	区分	当初予算額	補正額	転用額	現計予算額	支出済額	残額	備考
	普通旅費	204,716,000	0	▲ 24,362,000	180,354,000	118,384,943	61,969,057	執行残 88,401円/校
	修学旅行	101,852,000	0	0	101,852,000	101,538,941	313,059	
	野外活動	28,600,000	0	0	28,600,000	22,780,692	5,819,308	
	遠足付添	33,639,000	0	0	33,639,000	28,356,361	5,282,639	
	修学旅行下見	22,263,000	0	0	22,263,000	18,922,625	3,340,375	
	野外活動下見	3,327,000	0	0	3,327,000	2,766,374	560,626	
	遠足下見	10,109,000	0	0	10,109,000	7,659,296	2,449,704	
	研修	19,582,000	0	24,362,000	43,944,000	38,899,552	5,044,448	
	初任研	25,202,000	▲ 2,520,000	0	22,682,000	18,168,263	4,513,737	
	計	449,290,000	▲ 2,520,000	0	446,770,000	357,477,047	89,292,953	執行残 127,379円/校
財務施設課分		424,088,000	0	0	424,088,000	339,308,784	84,779,216	執行残 120,940円/校

執行率 82% (初任研は義務教育課負担)

中学校費	区分	当初予算額	補正額	転用額	現計予算額	支出済額	残額	備考
	普通旅費	156,886,000	0	0	156,886,000	103,581,908	53,304,092	執行残 177,090円/校
	修学旅行	173,809,000	0	0	173,809,000	170,846,993	2,962,007	
	野外活動	62,024,000	0	0	62,024,000	48,528,477	13,495,523	
	遠足付添	8,962,000	0	0	8,962,000	6,441,612	2,520,388	
	修学旅行下見	26,487,000	0	0	26,487,000	22,345,932	4,141,068	
	野外活動下見	6,628,000	0	0	6,628,000	4,284,986	2,343,014	
	遠足下見	1,333,000	0	0	1,333,000	612,555	720,445	
	研修	30,338,000	0	0	30,338,000	28,682,241	1,655,759	
	初任研	11,951,000	0	0	11,951,000	9,574,386	2,376,614	
	計	478,418,000	0	0	478,418,000	394,899,090	83,518,910	執行残 277,471円/校
財務施設課分		466,467,000	0	0	466,467,000	385,324,704	81,142,296	執行残 269,576円/校

2024/9/10

令和5年度旅費決算状況(かい別)

単位:円

費目	事務所	配分元	予算配分額	支出済額	不用額	学校数	不用額/校
小学校費	尾張	財務施設課	137,184,000	112,029,136	25,154,864	227	110,814
		初任研	7,085,000	6,055,245	1,029,755		4,536
		計	144,269,000	118,084,381	26,184,619		115,351
	海部	財務施設課	29,316,000	24,200,709	5,115,291	49	104,394
		初任研	1,505,000	1,278,072	226,928		4,631
		計	30,821,000	25,478,781	5,342,219		109,025
	知多	財務施設課	50,404,000	43,669,755	6,734,245	79	85,244
		初任研	3,722,000	3,303,939	418,061		5,292
		計	54,126,000	46,973,694	7,152,306		90,536
	西三河	財務施設課	115,034,000	89,390,556	25,643,444	217	118,173
		初任研	6,411,000	4,739,664	1,671,336		7,702
		計	121,445,000	94,130,220	27,314,780		125,875
	東三河	財務施設課	86,757,000	70,018,628	16,738,372	129	129,755
		初任研	3,662,000	2,791,343	870,657		6,749
		計	90,419,000	72,809,971	17,609,029		136,504
計	財務施設課	418,695,000	339,308,784	79,386,216	701	113,247	
	初任研	22,385,000	18,168,263	4,216,737		6,015	
	合計	441,080,000	357,477,047	83,602,953		119,262	
中学校費	尾張	財務施設課	145,657,000	129,032,633	16,624,367	102	162,984
		初任研	3,179,000	2,639,934	539,066		5,285
		計	148,836,000	131,672,567	17,163,433		168,269
	海部	財務施設課	28,445,000	25,266,934	3,178,066	22	144,458
		初任研	1,058,000	971,536	86,464		3,930
		計	29,503,000	26,238,471	3,264,529		148,388
	知多	財務施設課	57,017,000	48,717,646	8,299,354	35	237,124
		初任研	1,574,000	1,410,748	163,252		4,664
		計	58,591,000	50,128,394	8,462,606		241,789
	西三河	財務施設課	136,524,000	114,739,468	21,784,532	89	244,770
		初任研	3,471,000	2,749,596	721,404		8,106
		計	139,995,000	117,489,065	22,505,935		252,876
	東三河	財務施設課	81,376,000	67,568,022	13,807,978	53	260,528
		初任研	2,193,000	1,802,571	390,429		7,367
		計	83,569,000	69,370,593	14,198,407		267,894
計	財務施設課	449,019,000	385,324,704	63,694,296	301	211,609	
	初任研	11,475,000	9,574,386	1,900,614		6,314	
	合計	460,494,000	394,899,090	65,594,910		217,923	

「令和の日本型学校教育の実現に向けた教育環境整備 (義務教育費国庫負担金)」



令和7年度要求・要望額 1兆5,807億円
 (前年度予算額 1兆5,627億円)

全ての子どもたちへのよりよい教育の実現に向け、教職の魅力向上、教師に優れた人材を確保するため、学校における働き方改革の更なる加速化とあわせて、多様化・複雑化する教育課題への対応と新たな学びの実装による教育の質の向上を目指した、持続可能な学校の指導・運営体制の充実に必要な教職員定数の改善と、学びの専門職である教師にふさわしい処遇を実現するため、教職の重要性と職務や勤務の状況に応じた処遇改善を図る。

・教職員定数の改善 + 170億円 (+ 7,653人) ・教職員定数の自然減等 ▲192億円 (▲8,703人)
 ・定年引上げに伴う特別定員の減等 ▲29億円 ・教師の処遇改善 + 232億円 計 対前年度 180億円

学校の指導・運営体制の充実 + 7,653人

- 小学校における教科担任制の拡充 + 2,160人
 - ・学びの質の向上と教師の持ち授業時数の軽減のため、令和4年度から推進してきた高学年に加え、中学年についても教科担任制を推進 (※)
 - + 1,750人
 - ・新規採用教師の持ち授業時数軽減のため、教科担任制を推進 (※)
 - + 410人 **詳細は文科省から取りたい。**
- 生徒指導担当教師の全中学校への配置 (※) + 1,380人
 - ・急増する不登校やいじめ等に対応し、誰一人取り残されない学びを支援 (※) 4年間で計画的に改善
- 多様化・複雑化する課題への対応 + 476人
 - ・特別支援学校のセンター的機能の強化
 - ・貧困や離島・過疎地域など個々の学校が抱える課題への対応
 - ・チーム学校のための体制強化 (主幹教諭、養護教諭、栄養教諭、事務職員の配置改善)
- 35人学級の推進等、義務標準法の改正に伴う定数増 + 3,637人
 - ・小学校における35人学級の推進 (第6学年分) + 3,086人
 - ※35人学級等の効果検証に必要な実証研究は令和4年度より実施しており、令和7年度中に取りまとめ予定。

(学級編制の標準の引下げに係る計画)

年度	R3	R4	R5	R6	R7
学年	小2	小3	小4	小5	小6

・通級や日本語指導等のための基礎定数化 (9/10年目) + 551人

(参考)被災した児童生徒に対する心のケアや学習支援のため、教職員定数[452人]を別途要求(11億円)(復興特別会計)

教師の処遇改善 + 232億円

○教職の重要性を踏まえた教師の処遇改善

- ・教職調整額の改善
 - 学校が対応する課題の複雑化・困難化を踏まえつつ、教職の魅力向上、教師に優れた人材を確保するため、人材確保法による処遇改善後の優遇分を超え水準となるよう教職調整額の水準を4%から13%に改善。
 - (教職調整額の改善とあわせて、管理職(校長・教頭等)の本給も改善。)

○職務や勤務の状況に応じた処遇改善

- ・各種手当の改善
 - 学級担任や管理職の職務の重要性や負荷を踏まえ、処遇の改善を図る。
 - ▶学級担任への加算：月額3,000円 ※義務教育等教員特別手当に加算
 - ▶管理職手当の改善：支給水準の改善 (月額5,000円～10,000円の増)等
- ※都道府県等における給与条例の改正等に一定の期間を要することから令和8年1月から3月までの3か月分を計上。

・新たな職の創設 (R8.4～を予定)

学校横断的な取組についての学校内外との連携、調整機能の充実や、若手教師へのサポートのため、新たな職を創設する。
 ※教諭と主幹教諭の間に新たな級を創設し、教諭よりも高い処遇とする (月額6,000円程度)。

補習等のための指導員等派遣事業

令和7年度要求・要望額
(前年度予算額)

163億円
121億円



多様な支援スタッフが学校の教育活動に参画する取組を支援
教師と多様な人材の連携により、学校教育活動の充実と働き方改革を実現

教員業務支援員の配置【拡充】

事業内容

教師の負担軽減を図り、教師が児童生徒への指導や教材研究等により注力できるように、学習プリント等の準備や来客・電話対応、行事や式典等の準備補助等をサポートする教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）の配置を支援

概算要求額 : 110億円 (81億円)
人数 : 28,100人 (28,100人)
※補助単価を引き上げ



想定人材
地域の人材
(卒業生の保護者など)



実施主体
都道府県・指定都市



負担割合
国1/3
都道府県・指定都市2/3

副校長・教頭マネジメント支援員の配置【拡充】

事業内容

副校長・教頭の厳しい勤務実態を踏まえ、その学校マネジメント等に係る業務を専門的に支援するための人材の配置を支援



想定人材

退職教員、教育委員会
勤務経験者、
民間企業等での事務経
験者 等

概算要求額 : 16億円 (5億円)
人数 : 3,000人 (1,000人)



実施主体
都道府県・指定都市



負担割合
国1/3
都道府県・指定都市2/3



学習指導員等の配置【拡充】（学カ向上を目的とした学校教育活動支援）

事業内容

児童生徒一人一人にあつたきめ細かな対応を実現するため、学校教育活動を支援する人材の配置を支援。また、教職に関心のある学生の積極的な活用を推進することで、教職への意欲を高める。

児童生徒の学習サポート

TT指導(team-teaching)や習熟度別学習、放課後の補習など発展的な学習への対応
外国人児童生徒等の学力向上への取組

進路指導・キャリア教育

キャリア教育支援、就職支援のため
の相談員の配置
専門家による出前授業の実施に向けた調整等

学校生活適応への支援

児童生徒の抱える様々な教育課題に対応していくための支援

教師の指導力向上等

校長経験者による若手教員への授業指導
子供の体験活動の実施への支援



想定人材
退職教員、教師志望の学生をはじめとする大学生、学習塾講師、NPO等教育関係者等、地域における幅広い人材



実施主体
都道府県・指定都市



概算要求額 : 37億円 (34億円)
人数 : 12,000人 (11,000人)

負担割合
国1/3

都道府県・指定都市2/3

(担当：初等中等教育局財務課)

④ 進路委員会

令和6年10月7日

1 経過報告

8月9日(金) 三河校長会理事会・評議員会・懇談会 →南海トラフ注意情報発令で中止	岡崎 NGH
22日(土) 私学展(～23日)	愛知県体育館
26日(月) 県立高校中高連絡会(西三南) AM 県立高校中高連絡会(東三河) AM 県立高校中高連絡会(西三東) PM	刈谷市産業振興センター ライフポート豊橋 岡崎市役所分館
27日(火) 県立高校中高連絡会(西三北) AM	豊田市教職員会館
9月 5日(木) 愛知県名古屋市合同進路委員会④	県教育会館
10日(火) 私学合同説明会<名古屋地区①>	名古屋市教育センター
11日(火) 私学合同説明会<名古屋地区②>	名古屋市教育センター
12日(木) 私学合同説明会<名古屋地区③>	名古屋市教育センター
13日(金) 三河進路委員会④	豊橋商工会議所
14日(土) 専修学校展	ナディアパーク
17日(火) 愛知県進路指導中高連絡会① 私学合同説明会<西三河地区①>	県教育会館 岡崎竜美丘会館
18日(水) 私学合同説明会<西三河地区②>	岡崎竜美丘会館
20日(金) 私学合同説明会<東三河地区>	ロワジュールホテル豊橋
24日(火) 公私連絡会②	名古屋ガーデンパレス
10月7日(月) 三河校長会理事会都市代表者会	竜美丘会館

2 連絡事項

(1) 第4回合同進路委員会より

○各種関連団体との懇談会及び連絡会、協議会等の報告

愛知県教育委員会(高等学校教育課・特別支援教育課)、愛知県私学協会、
愛知県専修学校各種学校連合会、愛知県労働局、公私連絡会・・・前回理事会にて報告済

○R7年度、私学合同説明会の日程について

- ・9月9日(火)～11日(木) 名古屋尾張地区私学合同説明会(名古屋市教育センター)
- ・9月16日(火)17日(水)西三河地区私学合同説明会(場所は未定)予備日22日(月)
- ・9月19日(金)東三河地区私学合同説明会(ロワジュールホテル豊橋)予備日24日(水)

○専修学校(高等課程)の推薦合格者の他校受験及び、一般受験について

- ・専修学校高等課程推薦合格者について:校長が推薦した以上、他校受験は控える。
- ・専修学校高等課程一般合格者で公立不合格者について:公立2次募集を受検する場合は、必ず該当校に連絡をすること。

○令和7年度公立高等学校入試の推薦選抜(A推薦)について

- ・部活動等については、新型コロナウイルス感染症のために、志願者が1年次に大会等に出場できなかった場合があることに留意し、努力のプロセスについても評価する基準とする。

- ・新体力テストについては、正式な認定を受けたもののみを対象とし、「同党の記録を有する者」という文言は削除する。
- ・英検等の資格や検定についても、努力のプロセスについて評価する文言を削除する。

(2) 令和6年度愛知県進路指導中高連絡会(県公立高等学校長会との連絡会) 資料1

○令和6年9月17日(火) 10:00 県教育会館 7階

参加者 高等学校側 会長 副会長 理事 合計27名

中学校側 県・市会長 県・市顧問 地域代表(名・尾・三)3名

進路委員会委員(3地区委員長と副委員長)6名 合計13名

○概要

- ・要望書の内容についていずれも前向きに検討し、対応していく。
- ・南海トラフ注意情報が出た場合の体験入学の際の対応について
- ・猛暑の中の体験入学での対応について
- ・一般受検の面接の集合時刻の生徒への連絡方法についてはHPでできる限り早く掲載する。
- ・学校外のクラブ活動もきちんと調査書、推薦書に明記してほしい。
- ・公立高校進学フェアの参加者数の概要

名古屋会場6,202人(6,859)、豊橋会場547人(498)、刈谷会場は1,563人(1,595)
参加者には好評であった。

(3) 令和6年度 第2回 私学協会三河部との懇談会

○私学協会からの要望に対する回答(郡市町代表から中学校長へ配布)

資料2

- ・国の就学支援金及び県の授業料等軽減補助金制度の周知
- ・三河の生徒は三河私学へ(特待も推薦・一般も)
- ・高校説明への生徒及び先生の参加、中学校の説明会への私学の参加
- ・指導上配慮を必要とする生徒の適切な情報提供

○R7年度入学者選抜 生徒募集数

三河私学合計4,341名(-72名)

※西三河7校:2,594名(-41)、東三河5校:1,747名(-31)

3 今後の予定

10月8日(火) 専修学校高等課程合同説明会①	名古屋市教育センター
9日(水) 専修学校高等課程合同説明会②	名古屋市教育センター
11日(金) 公立高校入学者選抜実施要項説明会<名古屋>	名古屋市教育館
15日(火) 公立高校入学者選抜実施要項説明会<尾張>	三の丸庁舎
県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会	KKR ホテル名古屋
16日(水) 公立高校入学者選抜実施要項説明会<三河>	西三河総合庁舎
11月5日(火) 愛知県名古屋市合同進路委員会⑤	県教育会館
8日(金) 三河校長会理事会郡市代表者会	竜美丘会館
12日(火) 三河進路委員会⑤	三河教育会館

令和6年9月17日(火)

令和6年度 愛知県進路指導中高連絡会

愛知県・名古屋市小中学校長会 合同進路委員会

1 学校説明会及び学校案内について

- (1) 高等学校が実施する学校説明会は、なるべく多くの中学校に案内を出していただきますようお願いいたします。
- (2) 学校案内は、新年度が始まりましたら可能な限り早く届けていただきますようお願いいたします。

2 体験入学・学校見学会について

- (1) 2学期での開催や複数回の開催など参加機会の拡大をお願いします。また、愛知県中学校総合体育大会及び予選会が集中する時期をできるだけ避けていただくようお願いいたします。
- (2) 申込期日に余裕をもたせ、希望者全員が参加できるようお願いします。また、参加者を絞り込むために、中学校経由で「人数制限」や「先着順での受付」をすることがないようにお願いします。
- (3) 持ち物について、タブレットやスマホを持参する指示は行わないようにお願いします。
- (4) Webによる個人申込の導入・拡大を進めていただきますようお願いいたします。中学校を通して紙の申込書を使用する場合は、「共通様式」を引き続き利用していただきますようお願いいたします。
- (5) 実施日時と申込締切日に加え申込開始日についても、年度当初に県教委のHPに掲載していただき感謝申し上げます。日時の変更ができるだけないように実施をお願いします。変更の場合は、速やかに県教委を通して中学校に伝わるようにしていただきますようお願いいたします。
- (6) 中学校の授業日(長期休業中以外の平日)に実施しないよう、中学校の教育活動への配慮をお願いします。また、教員を対象とする場合は、愛知県の「会議・行事を行わない日」及び名古屋市の「学校閉庁日」を踏まえた計画をお願いします。

3 入試に関する事務等について

- (1) 推薦選抜について、実施要項には選抜基準をできる限り具体的に表現していただくとともに、体験入学、部活動の練習会での勧誘、競技関係者などによる事前勧誘等のないようお願いいたします。
- (2) 特色選抜について、求める生徒像を明確にさせていただくとともに、それに適した内容で入学検査や面接を実施していただくなど、推薦選抜や一般選抜との違いが生徒・保護者や中学校の教員にとって明確になるようお願いいたします。
- (3) 面接及び特別検査日の指定集合時刻の通知を、可能な限り早い時期に明示いただきますようお願いいたします。
- (4) 合格者発表後の高等学校への登校日時を、地区ごとに集約いただき、ありがとうございます。今後とも取りまとめとともに、可能な限り早めにお知らせいただきますようお願いいたします。また、登校日を授業日(卒業式前の平日)に実施しないよう、中学校の教育活動への配慮をお願いします。

4 受検上の配慮について

- (1) 障害等のある生徒の受検上の配慮について、これまで同様、該当の中学校と十分な情報交換を行いながら進めていただきますようお願いいたします。
- (2) 感染症等本人に帰責されない事由のために受検機会が失われないよう、当日の別室受検等、引き続き生徒の状況に応じた柔軟な対応をお願いします。
- (3) 今年度も引き続き、入試当日朝の、中学校から高校への連絡へのご対応をお願いします。

令和6年9月13日

愛知県私学協会三河支部長 寺部 暁 様

三河小中学校長会 会長 彦坂登一朗
三河進路委員会 委員長 石積 紀尚

「愛知県私学協会三河支部から中学校に対する要望」に対する回答

三河校長会進路指導委員会より、中学校教育及び進路指導の充実のため、中学校卒業生の私立高等学校への進学についての要望をさせていただいております。その一つ一つに対して、真摯に受け止めていただき、関係校への周知等適切な対応をしていただくと同時に丁寧にご回答させていただいておりますことに感謝申し上げます。

このたび一層の連携を深めるため、中学校に対しても愛知県私学協会三河支部からご要望をいただきました。ご要望の趣旨を十分に理解し、確認と検討をさせていただいた結果、以下のようにご回答させていただくと同時に各中学校長に周知させていただきます。

＜協会からの改善要望と質問に対する回答＞

- (1) 国の就学支援金と県の授業料等軽減補助金を合わせた額は年々充実し、2024年度は甲【年収720万円未満程度】は月額36,300円、乙【年収840万円未満程度】は月額18,200円、その他【年収910万円未満程度】は月額9,900円となりました。また、入学納付金補助金は、甲は200,000円、乙は100,000円です。さらに、非課税の世帯においては授業料以外の教育費負担を軽減する為の奨学給付金制度があります。生徒及び保護者への周知徹底をお願い申し上げます。

高校進学にかかる費用については、保護者の大きな関心事です。国の就学支援金と県の授業料等軽減補助金、教育費負担を軽減するための奨学給付金制度等の周知徹底につきましては、愛知県や私学協会からの資料をすべての家庭に配付するとともに、進路説明会や懇談会等の場面で保護者及び生徒に対して確実に説明を行うように各中学校に周知徹底します。

- (2) 公私比率2対1に基づき、毎年度県教育委員会と協議して各私立高校の募集数が決められています。この各私立高校の募集数が実現できますように、三河地区の私立高校の特色と実績を生徒及び保護者にご紹介していただき、三河地区の生徒はできるだけ三河地区の私立高校へと推薦していただきますようお願い申し上げます。

通学の利便性等に加え、三河地区の私立高等学校は素晴らしい特色と実績があります。これらを紹介するためにパンフレットの配付や高校説明会、学級活動等の場面で生徒及び保護者に紹介するよう周知します。

- (3) 私立高校主催の学校見学会・体験入学等の開催案内につきまして、生徒及び保護者への周知徹底をお願い申し上げます。

生徒及び保護者には、進学や受験の希望がある高校には必ず学校見学会や体験入学等に参加するように指導しています。学校見学会・体験入学一覧表を配付し、進路指導だより等を使って情報提供をします。ご要望を踏まえ各郡市の進路指導委員会においてもいっそうの周知に取り組むよう働きかけるとともに、各中学校を通して教職員に周知して意識を高めていきたいと思っております。

- (4) 三河地区の私立高校の文化とスポーツの振興のために、優秀な生徒を三河地区の私立高校へ推薦していただきますようお願い申し上げます。

三河地区の子は、地元の三河で活躍し、さらに成長してほしいと願っています。私学協会三河支部の要望を各中学校へも周知します。そのうえで、生徒及び保護者の希望を尊重しながら、生徒にとってよりよい進路選択ができるように丁寧に相談を進め、三河支部の高校と緊密に連携を図るよう各中学校へ周知します。

- (5) 私立高校主催の教育連絡会・体験入学・学校見学会開催の折には、中学校の先生方につきましても是非ご来校いただきますようお願い申し上げます。

経験の浅い教員を中心に、教育連絡会・体験入学・学校見学会にできるだけ参加するように周知します。ただ、授業や部活動の指導や働き方改革の課題等があり、校長が休日の参加を指示することが難しい現状がありますことをご承知おきください。

- (6) 生徒及び保護者が公立高校の入試制度をより一層正確に理解していただけるように、「公立高等学校辞退の自由について」という項目を公立高校入試制度説明資料の中に設けてくださるようお願い申し上げます。

「公立高等学校辞退の自由について」は、進路選択は受験生にあることを改めて確認し、周知を図ります。今年度の入学者選抜でも、私立一般合格後に公立受検を辞退した生徒や公立合格後に辞退した生徒もおります。中学校現場では、生徒・保護者の希望を最優先に尊重し進路指導を行っております。これまで、公立・私立等を合わせた中で入試日程と進学希望順位を確認し、その希望順位に応じた受験や進学先の選択をするように指導してまいります。

- (7) 中学校主催の説明会につきまして、すべての中学校で開催していただけるようお願い申し上げます。

中学校主催の説明会に、私立高校が参加について強い要望のあることは、三河進路委員会を通して、すべての中学校に周知します。多くの中学校が、私立高校の先生もお招きして、高等学校等説明会を開催していると認識しています。1校の説明時間や各校の進学実績等の事情によりすべての三河地区の私立高校に参加をお願いできない場合もありますことをご承知おきください。

- (8) 指導上配慮を必要とする生徒については、入学までにその旨をご連絡くださるようお願い申し上げます。

受験当日についての配慮や支援が必要な生徒の状況に関しては、出願を終えてからではなく、事前相談など、可能な限り早期に中学校での状況や実際の支援等について情報提供をするよう周知してまいります。進学が決まった生徒が安心して入学後の生活を送るためにも、配慮や支援が必要な生徒について、生徒の特性、必要な配慮事項や支援方法等の情報提供は大切であると考えます。進学が決定した際には、中学校から高校へ個人情報に配慮しながら可能な限り詳しくその内容について連絡するように周知してまいります。

○テーマ「少年の非行・被害情勢と対策の傾向について」

日時 令和6年6月24日(月)

⑧

講師 愛知県警察本部 生活安全部少年課 江口 彩太郎 氏

1 非行の概況

- ・令和5年度は前年度より増え、少年犯罪は25%増加。
- ・少年犯罪は平成15年から右肩下がりであったが、令和4年から大きく変化した。
- ・令和6年度は、令和5年度と同水準で、よくない状況は続いている。
- ・暴力的な犯行を敢行する非行集団が存在し、令和5年度から名古屋市を中心に、集団リンチ、髪切り、美人局などを行っている。

2 少年非行を取り巻く課題

① 闇バイトに負担する少年が全国的に増加

- ・県内でも特殊詐欺事件に負担して逮捕される少年が増加。R5…31人(全体の約17%)
- ・令和5年5月、東京銀座で高級時計店を襲撃する強盗事件が発生(被疑者は4人の少年)。6月には、名古屋市中区大須でも闇バイトを通じた強盗事件が発生(被疑者の1人は県内居住の少年)。
- ・SNS上で「高額なバイト」「楽しんで稼げる」等の文言で若者を募集。
- ・言葉巧みに秘匿性の高い通信アプリに誘導し、甘い言葉で勧誘。その際、保険証、学生証等の身分証の写真を送信させる。
- ・途中で犯罪だと気がついて、「身分証をネット上で拡散させる」「ヤクザがバックにいる」等と脅し、思いとどまることができないよう追い込む。
- ・負担した結果、逮捕リスクの高い末端の役割(受け子、出し子)に利用される。
- ・約束の高額な報酬を得られないばかりか、失敗すれば罰金等を請求され脅され、捕まるまで抜けることが困難に。

② 少年による大麻事犯の急増

- ・大麻取締法で検挙された少年(令和5年中)72人(前年比+10人、+16.1%)。過去最多となった令和2年を上回り、過去最多を更新。
- ・大麻が急増している背景(一般論として)は、覚せい剤等に比べて健康被害が少ない(無い)との誤った情報が流れている。
- ・大麻が合法的な国があるので大丈夫との勝手な判断がされている。
- ・SNS上で、隠語(葉っぱ、野菜)を用いて売買され比較的入手が容易。
- ・購入価格が比較的安価(覚せい剤の約10分の1)。
- ・低年齢からの地道な教育、啓発が最大の防止策。「大麻は、違法であり間違いなく健康被害をもたらします。」「一度でも行えば人生が破滅することに!!!」

③ オーバードーズ(薬局やドラッグストアで購入できる市販薬を多量に服用する)

- ・多幸感を得て精神的な苦痛から逃れるため、少年の間で増加。最悪の場合、死に至るケースも。
- ・乱用される薬の種類:パブロン(咳止め)、メジコン(咳止め)、ブロン(咳止め)イブA錠(解熱鎮痛薬)等。
- ・問題のない子が行い救急搬送されるなど、居場所のない子だけが対象ではない。

④ 少年による児童ポルノ事犯の急増

- ・児童ポルノ事犯検挙人員、令和5年中検挙人員218人のうち103人が少年。検挙人数は、平成26年と比べ大幅に増加(415%)し、10代が全体に占める割合は、平26年の12.4%に対し、令和5年は47.2%を占める。
- ・児童ポルノ事犯が急増している背景は、子ども世代へのスマートフォンの普及、SNS(交流サイト)の普及があげられる。
- ・対策としては、性被害防止に関する教育とともに、情報モラル教育の実施を。
「撮らない・送らない・要求しない」「フィルタリングやペアコントロールが効果的(フィルタリングは4割の少年がかけていない)」
- ・コロナ情勢以降、警察官による対面型の教養が困難。全校放送を活用した講話、啓発映像を活用した教育に協力してほしい。

3 警察の取り組み

- ・自撮り被害防止アプリ「コドマモ」の開発。令和5年3月30日にリリース済で無料。子供と親のスマホにアプリをダウンロードしてリンクさせ使用。
- ・「子供の性被害110番」。子供の性被害に特化したメール相談窓口。
- ・「学校警察連携制度に関する協定」に基づく相互情報提供。
- ・スクールサポーター(元警察官の非常勤職員)による、少年の非行防止、少年の立ち直り支援、児童・生徒を非行及び犯罪被害から守ること、学校等における児童および生徒の安全確保等。

※「子どもの性被害110番」は、下記のURLからアクセス可能です。

<http://www.pref.aichi.jp/police/soudan/mail/kouhou/kodomoseihigai110.html>

令和6年10月 日

関係小中学校長 様

愛知県小中学校長会長 都築 孝明
同 生徒指導委員会委員長 鈴木 常浩

生徒指導上の課題と対策に関する調査について（依頼）

みだしの件につきまして、県小中学校長会生徒指導委員会では、県内の小中学校の生徒指導上の課題とその対策の実態を把握し、それをもとに生徒指導の在り方について研究したいと考えています。

つきましては、貴校に調査対象校としてご協力をお願いいたします。お忙しいところ恐れ入りますが、下記のとおり、調査へのご回答、ならびに回答完了のご報告をお願いいたします。

記

- 1 依頼内容 ①生徒指導に関する実態調査（依頼させていただいた学校）
②回答完了の報告
- 2 調査期間 令和6年10月17日（火）～令和6年10月30日（月）
- 3 調査方法 下記 URL のグーグルフォームにより回答

■Google フォーム『県校長会生徒指導委員会アンケート』

<https://forms.gle/BVWqYDZRjkigbKqF6>



- 4 報告期限 令和6年11月 5日（火）までに下記担当まで

5 備考

- (1) この調査は、県内4分の1（小学校175校、中学校76校、合計251校）の学校にお願いしています。
- (2) この調査は、校長先生の考えをお聞きするものです。関係職員の意見も参考にしながら貴職ご自身で回答してください。
- (3) お問い合わせは、下記の担当者までお願いします。

担 当 ○○市立○○学校 ○○ ○○
TEL ○○○○-○○-○○○○
メール ○○○○@○○○○.○○.○○

三河特別支援教育委員会 報告依頼事項

令和6年10月7日（月）

1 経過報告

(1) 会議等

- ・第3回 愛知県小中学校長会 特別支援教育委員会

日 時：令和6年6月21日（金）13：00～

会 場：名古屋市教育館

(1) 令和6年度調査研究の調査内容・方法について

- ・第2回 三河小中学校長会 特別支援教育委員会

日 時：令和6年4月10日（水）15：15～

会 場：蒲郡市民会館

協議・報告

(1) 令和6年度調査研究について

(2) 調査等

- ・令和6年度全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会全国調査

令和6年8月13日（火）～9月2日（月）Web 回答

各地区回答校を10%程度抽出

- ・全連小特別支援教育委員会アンケート

令和6年8月28日（水）Web 回答

愛知県26校抽出回答

2 令和6年度特別支援学級の実態調査について

(1) 目 的

近年、児童生徒の障害の重度・重複化、他学年化、ニーズの多様化が進み、特別支援学級の学級編制基準が8名では、担任が指導・支援を行う上で大きな不安を抱えている現状がある。そこで、安全管理面、生活指導・生徒指導面、学級経営・運営面について困難さを抱えている実態を調査し、より具体的な課題を明らかにしていきたいと考える。

一人一人に対応した学びを実現するためにも、これらの調査研究の結果を、編制基準の引き下げを始めとした今後の特別支援教育の推進や充実に向けて、県への提言・要望等を検討するため基礎データとしていく。

(2) 調査対象

各市町村において、知的障害特別支援学級、または自閉症・情緒障害特別支援学級を設置する小・中学校から校種別に抽出した調査対象校の知的障害特別支援学級、または自閉症・情緒障害特別支援学級担当教員（各校1名） ※県費の常勤講師を含む

なお、調査対象校の数については、

- 各地区学校数の小・中学校別に1／4をこえる程度の学校数（偶数で）を目安に抽出する。
- その調査対象校の内、知的障害特別支援学級担任へ依頼する学校を1／2、自閉症・情緒障害特別支援学級担任へ依頼する学校を1／2とする。
その際、在籍児童生徒数が5名以上のところが半数以上になるように配慮する。（5名以上の学校がなければ配慮の必要なし。）

(3) 回答期限

令和6年9月30日（月）Web 回答 ※回答済み

(4) 特別支援教育委員会年間計画

- 4～ 7月 組織づくり、学級編成基準に関する意見集約 ※済
- 8～10月 関係組織等からの調査依頼の配付と実施 ※済
- 11～12月 調査研究のまとめと考察、委員研修
- 1～ 2月 次年度に向けての準備

4 今後の予定

- ・第4回 愛知県小中学校長会 特別支援教育委員会
日時：令和6年10月22日（火） 13：00～
会場：愛知県教育会館 ※15：00～県教委合同研修会
- ・第5回 愛知県小中学校長会 特別支援教育委員会
日時：令和7年 1月21日（火） 13：30～
会場：ウインクあいち ※15：00～愛特研
- ・第3回 三河小中学校長会 特別支援教育委員会
日 時：令和7年2月 5日（水）13：30～
会 場：蒲郡市民会館
- ・第6回 愛知県小中学校長会 特別支援教育委員会
日時：令和7年 2月13日（木）13：30～
会場：愛知県教育会館

修学旅行特別委員会 報告事項

1 経過報告

- 6月25日(火) 令和8年度修学旅行連合体列車申込開始
- 7月16日(火) 日本修学旅行協会愛知県支部情報交換 名古屋都市センター
- 7月25日(火) 第41回全国修学旅行研究大会
- 8月7日(水) 令和6年度中学校修学旅行実態調査集約結果報告
- 8月5日(月) 令和8年度修学旅行連合体列車申込希望調査報告
- 8月9日(金) 修学旅行実態調査製本業者打合せ

2 令和6年度実態調査について<8月31日現在速報値>

① 令和6年度 修学旅行実施の状況について

- ・当初の予定通り実施 296校(尾張156 三河140)
- ・時期・方面等を変更して実施 2校(尾張 1 三河 1)
- ・当初から実施予定なし 0校

② 実施期間

- ・1泊2日 5校(尾張 4 三河 1)
- ・2泊3日 287校(尾張147 三河140)
- ・3泊以上 6校(尾張 6)

③ 実施月

- ・4月 2校(三河2)
- ・5月 148校(尾張86 三河62)
- ・6月 132校(尾張70 三河62)
- ・7月 1校(尾張1)
- ・8月 0校
- ・9月 13校(三河13)
- ・10月 1校(三河1)
- ・11月 1校(三河1)

④ 生徒旅行費用(概算・各種割引前)

- ・平均 62,572円(尾張64,792 最大108,617 三河60,099 最大82,217)

⑤ 参加率(通常学級/特別支援学級)

- ・参加生徒数 46,356名/995名(尾張24,818/453 三河21,538/542)
- ・不参加生徒数 1,798名/297名(尾張1,122/93 三河676/76)
- ・参加率 96.3%/85.5%(尾張95.7/83.0 三河97.0/87.7)

<今後の流れ>

- 10月中 まとめ原稿審議(業者↔委員会事務局)
- 11月12日(火) 調査まとめ検討(第3回合同修学旅行特別委員会)
- 12月下旬 調査結果配付(地区委員→各校、市町村教委など)

3 令和8年度修学旅行連合体列車申込について

<希望状況>

- ・尾張地区:157校中 102校(前年比:+10校)
- ・三河地区:141校中 41校(前年比:+3校)

<今後の流れ>

10月10日(木)～

事務局で作成した5地区を併せた仮入れ付け表をもとに地区間で調整

10月31日(木)最終調整後の『入れ付け表』を事務局へ

11月7日(木)以降事務局が各学校への内示

11月20日(水)代理店への開示(一般開示)※開示までは㊟扱い

代理店を通じ、JR東海への修学旅行団体申し込み

4 その他

○秋季連合体輸送意向調査(8月31日現在 速報値)

愛知県中学校(含名古屋市)

回答校 336校/408校(回答率 82.4%)

ア 利用したい 3校 イ 利用を検討する 52校 ウ 利用しない 281校

○キャンセル料保険について

令和6年10月7日

教育課題特別委員会活動報告

1 調査研究の方向性

昨今の社会の在り方は、「多様性」を重視する傾向に変化してきている。子供が育つ家庭や地域社会においても同様な価値観がもたれるようになってきた。このような流れの中、学習指導要領がもつめる「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化が、次世代を担う人材を育成する鍵となる。

教育課題特別委員会では、「個別最適な学び」を切り口として取り上げ、これを保障できる教員を校長が強い意思をもって育成（学校組織のマネジメント）することで、教員を取り巻く厳しい情勢を乗り越えることができる力量ある教員を増やしていくことができると考えた。

そこで「個別最適な学びを保障する」を次のように定義し、アンケート調査による研究を行うことにした。

- ・「指導の個別化」：教員が児童生徒一人一人に最適な学びを自力で計画・実行できるように育成していくこと
- ・「学習の個性化」：教員が個々に応じた多様な教材・学習時間・方法等の柔軟な提供をすること

上記のように個別最適な学びを保障できる教員を育成するための学校組織づくりについて調査研究をすすめていく。

2 学習指導要領実施上の課題についての調査研究

- すべての子どもの可能性を引き出す、
個別最適な学びを保障できる学校組織づくりのための調査研究 —

令和4・5年度の教育課題委員会調査を通じて、新たに導き出された課題は次の2点である。

- ① これからの教員の資質として必要となるものは、「多様な児童生徒のための対応力」であるということ。 → 個別最適な学びを保障できる力をもった教員の必要性
- ② 一人の教員では困難なため、校務分掌などの見直し等、マネジメントと教員育成が必要であること。 → 教員の資質を向上させることができる校長のマネジメント力向上

これら2点を新たに調査し、より先進的な実践を収集・紹介していくことを目標としていきたい。そのために、次のような内容でのアンケート調査を県内2割程度の小中学校に行いたいと考えている。

アンケート調査研究内容

- 1 個別最適な学びを保障できる力量ある教員を育成するための取組
- 2 R4・5の研究を掘り下げ、「個別最適な学び」に効果があったとされる学習方法の詳細
- 3 「個別最適な学びを保障できる力量ある教員」を育成するための学校組織づくり

以上のような内容で調査研究を行い、現状と課題を洗い出し、それらを整理、考察してまとめしていく。そうすることで、今後の各学校の実践の参考にしてもらいたいと考えている。

今後、アンケートの質問内容をさらに吟味することで、12月から1月にかけて調査を実施できるようにすすめていく予定である。

東陸小特別委員会報告依頼事項

令和6年10月7日

1 第59回東海・北陸地区連合小学校長会教育研究大会について

開催期日 令和6年10月17日(木)・18日(金)
会場 10月17日(木) ウィンクあいち
(愛知県産業労働センター)
10月18日(金) 常滑市民文化会館
記念講演
講師：杉本昌隆 棋士
演題：「将棋界における若い世代との接し方」

2 依頼事項

- ・ 分科会のグループ座長・記録は、愛知の先生方をお願いすることとなっている。
9月下旬に座長・記録者には連絡し、会の運営方法について、大会までに周知徹底を図り、有意義な分科会にしていきたい。
- ・ 全体会会場の常滑市民文化会館は、朝9時に開場する。会場周辺には待機場所がないので、早すぎる来場を控えるよう協力いただきたい。これはウィンクあいちについても同様のことが言える。会場へご迷惑をおかけしないよう配慮していきたい。
- ・ 全体会会場では、常滑市民文化会館会場に隣接するポートレースとこなめの駐車場(早朝より利用可、無料)に駐車することができる。なお、アクセスの際、会場近隣の迷惑を避けるため、大会ご案内 P26 にお示ししたように矢印の経路で迂回をお願いしたい。
- ・ 全体会会場の収容人数にゆとりがなく、時間の制約もある。参加者の理解と協力を得て大会運営を進めたい。
- ・ 全体会では時間短縮のため、各自で用意した名札ホルダーを使用することによって受付に代える。「大会のご案内」の最後のページにある名札枠に必要事項を記入し、各自で用意した名札ホルダーに名札を入れて持参すること。

IV 分科会・全体会 会場案内図

10月17日(木)の分科会は、ウイंकあいちにて行います。10月18日(金)の全体会は常滑市民文化会館にて行います。お間違えのないようにお願いします。

10月17日(木)分科会 会場案内図



10月18日(金)全体会 会場案内図



第66回 東海北陸中学校長会研究協議会
愛知大会 開催概要(案)

1 主 題 「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」

2 主 催 東海北陸中学校長会 愛知県中学校長会 名古屋市立中学校長会

3 後援(予定) 愛知県・愛知県教育委員会 名古屋市・名古屋市教育委員会
全日本中学校長会

4 期 日 令和8年7月2日(木)・3日(金)

5 会 場 ◇全体会:Niterra 日本特殊陶業市民会館 ビレッジホール

〒460-0022 愛知県名古屋市中区金山一丁目5番1号 TEL 052-331-2141

◇分科会:愛知県産業労働センター ウィンクあいち 9・10・12階

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38 TEL 052-571-6131

◇理事会・レセプション:名古屋駅近辺

◇分科会打合せ会場:各分科会会場

6 日 程(案)

(1) 1日目 7月2日(木) 理事会・分科会

	11:00	12:00	13:00	13:30	16:30	18:00	20:00
2日 (木)	理事会		受付	分科会			レセプション
		分科会 打ち合わせ					

(2) 2日目 7月3日(金) 全体会・記念講演

	9:00	9:30	10:30	12:00	12:10
3日 (金)	受付	全体会 I	記念講演	全体会 II	

東陸中特別委員会

(3) 7月2日(木)の日程詳細

理事会 11:00~12:00	分科会打合せ 12:00~13:15	分科会 13:30~16:30
ウインクあいち 12階会議室	各分科会会場	各分科会会場
○開催権会長挨拶 ○R7年度会務・会計報告 ○R8年度事業計画・予算 ○大会宣言・決議文 ○愛知大会概要説明 ○次年度開催県より 富山県(基本構想等)	※昼食 ○挨拶 ○分科会の進行確認 運営責任者、会場責任者、 司会者、発表者、記録者の 打合せ	○開会のことば ○研究協議 口頭発表 研究協議 まとめ ○閉会のことば

(4) 7月2日(木)の分科会研究題・分担及び分科会会場

分科会	研究題	口頭発表	司会	会場
1	「カリキュラム・マネジメント」の推進	静岡 三重	三重 愛知	1201 中会議室 A
2	「主体的・対話的で深い学び」の実現	岐阜 愛知	岐阜 愛知	901 大会議室
3	よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実	福井 静岡	静岡 愛知	1202 中会議室 A
4	健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実	石川 岐阜	石川 愛知	903 中会議室 B
5	社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実	愛知 富山	富山 愛知	902 大会議室
6	自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実	三重 石川	石川 愛知	1003 中会議室 B
7	「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成	三重 愛知	三重 愛知	1002 大会議室
8	学校と地域の連携・協働による「チーム学校」と「働き方改革」の実現	福井 富山	福井 愛知	1001 大会議室

(5) 分科会参加人数要請(会員数の50%、愛知県100%)

県名	愛知	岐阜	三重	静岡	福井	石川	富山	総計	グループ数
会員数(R8)	409	175	146	251	68	83	76	1208	
参加人数	409	88	73	126	34	42	38	810	
第1分科会	46	11	9	15	4	4	4	93	15
第2分科会	65	14	9	18	4	5	5	120	20
第3分科会	42	11	9	16	5	6	4	93	15
第4分科会	33	9	7	11	3	5	4	72	12
第5分科会	64	11	10	18	4	6	7	120	20
第6分科会	32	8	8	11	3	6	4	72	12
第7分科会	64	12	11	19	5	5	4	120	20
第8分科会	63	12	10	18	6	5	6	120	20
合計	409	88	73	126	34	42	38	810	134

東陸中特別委員会

(6) 7月3日(金)の日程詳細

受付 9:00~9:30	全体会 I 9:30~10:20	記念講演 10:30~11:50	全体会 II 12:00~12:10
	○開会式 国歌斉唱 開会の挨拶 来賓祝辞 来賓紹介 大会宣言・決議文 次年度開催県挨拶	○講演 (現時点では講師未定)	○閉会式 閉会の言葉

7 記念講演

○ 演題 「未定」

○ 講師 検討中 () 氏 ※現在、トヨタ自動車会長 豊田章男氏に打診中

<講演内容の方向性(例)>

- ① 学校経営(校長としてのリーダーシップの在り方やマネジメント力、働きやすい職場環境整備等)や、子どもや教員の人材育成へのヒントとなるような企業の取組、御自身の生き方。
- ② 精神的な豊かさまで含めて幸福を捉える「ウェルビーイング」について。
- ③ 今後予測する未来社会像や目指すべき未来社会像を見据えて取り組んできたこと。

8 大会参加費 7,500円

9 大会事務局 東海北陸中学校長会研究協議会岐阜大会事務局

(愛知県小中学校長会事務局)

〒460-0007 愛知県名古屋市中区新栄1丁目49-10 愛知県教育会館

TEL 052-261-8152

※ 令和7年度大会より、シンボルマークは作成しないことになりました。

■東陸中愛知大会会場周辺地図

1日目 分科会会場 ウィンクあいち

